問産業観光課　☎内線334

鴫立庵だより

鴫立庵とは、江戸時代から続く俳諧道場でござる。
初代庵主大淀三千風が開き、現在では京都の落柿舎、滋賀の無名庵と並び日本三大俳諧道場と呼ばれているでござるよ。

鴫立庵大使「えんいくん」
※俗名は佐藤義清（のりきよ）。
出家して法号は円位、後に西行。

◆今月の俳句1◆

のほほんと　のほほんとして　吊し柿

神奈川県平塚市　瀧谷　弥可

（評）
季題は「吊し柿」。さまざまな種類がありますが、多くは渋柿の皮を剥いて晩秋の日光に干し晒し、だんだんに色が濃くなって乾いたら食べ頃となります。「味は大和のつるし柿」とも言いますが、今は各地に特産品として見られます。一句の味わい処は「のほほん」。もともとは江戸時代の囃子詞ですが、他には無頓着で平然としているさま、とも。多くは良い意味で、おっとりしている様子のことで、「吊し柿」の柔らかい柿色が秋の日ざしの中に、おっとり吊されている様子はなるほど「のほほん」という感じもしますね。

（鴫立庵庵主　本井　英）

◆今月の俳句2◆

瓶の中　いつかのきみの　桜貝

愛知県立幸田高等学校　宇野　ひなた

（評）
季題は「桜貝」で「春」。砂泥の浅い海に棲息する二枚貝です。殻には光沢があって、良く見ると細い輪脈という筋もみえます。「桜色」をしていることからこの名がありますが、一方では「桜の花」の咲く時期にとくに砂浜に打ち寄せられるので、この名があるともいわれます。「桜貝の歌」という曲は「うるはしき桜貝ひとつ。去りゆける君に捧げむ。この貝は去年の浜辺に。われひとり拾ひし貝よ。」と恋の悲しみを唄ったもの。この句のように、いつまでも「瓶」にしまって大切にしている人もいるに違いありません。

（鴫立庵庵主　本井　英）

◇今月の短歌◇

怒られて　みたかったなと　顔知らぬ　父親思う　傘寿を越えて

東京都板橋区　久保　親二

（評）
幼くして父親と別れた作者。母と子どもたちの一家には、人知れぬ苦労もあったことでしょう。やがて、自らも家庭を持った作者は、日々奮闘したに違いありません。もし父親が居たら、あの時に意見してくれたかもしれない。そう思うのは、孤独な決断を下してきたからに他なりません。そして、傘寿を迎え、平安を得た作者は、顔を知らない父親に、感謝を伝えたいのではないかとも思ったのでした。

（西行祭選者　柳　宣宏）

講座の申込み・問合せ　鴫立庵　☎(61)6926

定定員　費費用　持持ち物

講座名	日　程	時　間	備　考
連句勉強会	8月7日(日)	10:00～正午	連句づくりを楽しもう！　4期生募集中 講師：本井　英氏（鴫立庵庵主）　定15人　費2,000円（入庵料込）
寄　席	8月13日(土)	開場13:00 開演13:30	演目：「へっつい幽霊」「巌流島」「まんじゅう怖い」 演者：桂　三十助、柳家　お三治、桂　三十翁 定30人　費800円（入庵料込）
座　禅	8月20日(土)	13:30～14:30	姿勢・呼吸・心を整えます 講師：豊田　素道氏（慶林寺住職）　定10人　費500円（入庵料込）
伝　筆	8月28日(日)	10:30～正午	温かみのある文字が書けるようになる筆文字教室 講師：認定講師 わでん伝筆マスター 宮前　礼子氏 対象：中学生以上　定10人　費3,850円（材料費込）
風鈴祭	8月28日(日)まで	9:00～16:00（終日）	西行祭の献詠入選句および2021年度投句の展示と小田原風鈴の飾りを音色と共にお楽しみください。
茶と遊ぶ	9月3日(土)	10:00～正午	香りあるお茶を楽しもう　～着香茶アレコレ～ 講師：髙野　幸代氏　定10人 費2,000円（お茶菓子付き・入庵料込）